

第39回 経営協議会 議事要録

日 時 平成24年3月15日(木) 13時35分～15時15分

場 所 事務局第二会議室

出席者 宮田亮平学長、畑中裕良理事、井橋光平理事、
池田政治美術学部長、植田克己音楽学部長、堀越謙三大学院映像研究科長、
石田義雄委員、中村胤夫委員、遠山敦子委員、福井俊彦委員、高階秀爾委員

欠席者 滝 久雄委員

陪 席 監事：中島尚正監事、竹内雄也監事、
渡邊健二理事、北郷 悟理事、宮廻正明学長特命・社会連携センター長、
多田羅迪夫学長特命、田口榮一附属図書館長、関 出大学美術館長、
杉木峯夫演奏芸術センター長

議題

1. 平成24年度予算編成方針(案)について
議長から標記のことについて提案があり、畑中理事から資料に基づき説明があり審議の結果、原案どおり承認された。
2. 平成24年度国立大学法人東京芸術大学年度計画(案)について
議長から標記のことについて提案があり、畑中理事から資料に基づき説明があり審議の結果、原案どおり承認された。
3. 東京芸術大学予算規則の一部を改正する規則等の制定について(案)
議長から標記のことについて提案があり、畑中理事から資料に基づき説明があり審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 国における給与削減法等の概要について
標記のことについて、畑中理事から資料に基づき報告があった。
2. その他(昨今の本学をめぐる諸情勢について)
 - 議長から、本学に関係する新聞報道について報告があった。
 - ・ 和田淳監督のベルリン国際映画祭「銀熊賞」の受賞について
 - ・ 澄川喜一名誉教授の東京スカイツリーについて
 - ・ 箭内道彦氏の東日本大震災に対する復興支援について
 - 宮廻学長特命から、特許利用によるビジネス展開について報告があった。
 - 議長から、文化芸術の振興に関する基本方針について報告があった。
 - 議長から、文化審議会会長への就任報告があった。

- 杉木演奏芸術センター長から、被災地支援のチャリティーコンサート「故郷」等について報告があった。
 - ・ 新聞報道で話題となったトランペットを奏でる少女を招いて演奏が行われた。
- 議長から、佐藤雅彦教授等の芸術選奨受賞について報告があった。
- 北郷理事から、総合アーカイブセンターの活動報告があった。
- 北郷理事から、上野地区の文化発信について図面資料等に基づき報告があった。
- 堀越大学院映像研究科長から、アニメーション専攻の卒業制作作品及び震災ドキュメンタリー「なみのおと」のDVDについて報告があった。
- 議長から、「藝大通信」について報告があった。

外部委員からの主な意見

- 震災後、入国を控えていたアジアの国々から有名大学を集めて行う125周年シンポジウムは意義あるものとする。
- 大震災を契機に、若者の考え方が地域とか、文化芸術へも向けられるように変わったように思われる。これをどう取りまとめ、ステップアップさせられるか。藝大の役割はどのようなものであるか、その方向性を示してはどうか。
- 地方の芸能、文化をクローズアップしていけば、その中で藝大ができることも見いだすことができるのではないか。
- 配付された資料からも、藝大は様々な活動を行っているので、もっと外へ向けてPRすべきである。
- 学生の応募数はどうであったか。
 - ・ 志願者数は、様々な理由から減っているが、全体のレベルという観点からは、学生の確保はキープしている。
 - ・ 地方の高校での説明会など、様々なPRも必要かと考える。
- 卒業生に対する支援システムはあるか。
 - ・ 取手校地に新たにアトリエを設置、若手芸術家の支援活動を実施する。
 - ・ 実社会において、もっと多くの文化的な就職ポストを設置することが望まれる。
- 国立大学法人として、経営の自主性はあるか。
 - ・ 給与等、人事院勧告に準拠はしているが、例えば、民間からの資金が活かせるなど、大学の自主的努力が反映できるシステムになっている。
- 国が貧しくなっても、芸術が貧しくあってはならない。むしろ栄えるようでないといけないと考える。
- JRで行った寄付講座が様々な発展をしていった経験を持つが、例えば、ヨーロッパにおける町のリニューアルの企画などは、様々な専攻を持つ藝大であれば、一大学だけで統一的なものができるのではないか。つまり藝大であれば、寄付講座の企画が出しやすいのではないか。
- 総合アーカイブセンターの活動については、専門的な人の配置が望まれる。
- 上野地区の文化発信について図面資料などを見ると、上野公園全体がループルとなり得ると考える。
- 多くの役所が絡むため縦割りの複雑さはあるが、逆に言えば多様性が持てるということであり、上野の山文化ゾーン構想といえる。